シンポジスト

財政破綻と再生の立場から
一人の困りごとは地域の困りごと

安斉　尚朋（一般社団法人らぷらす）

１．夕張市の現状

夕張市は人口のピークが昭和３５年で１１６，９０８人、財政破綻の平成１８年は１３，０４５人、平成３０年１２月の時点で人口は８，１０５人となり、急激に人口が減少しています。また、６５歳以上の人口が４，１３０人、高齢化率は５０．９６％、障がい者の人口比率は１２．７％（平成２９年３月）となっており、夕張市の６３％は高齢者と障がい者で構成されています。

地形は南北に３４キロと長く、人口ピーク時は至る所に炭鉱住宅が並んでいましたが、今は古い住宅の幾つかが、市営住宅として残り、殆どが取り壊されて野山となっています。現在夕張市では、まちの中心部に複合拠点を整備し、まちの機能を中心部に移したり、南北に延びる交通機関の周辺に市民の生活の拠点を集約したりとコンパクトシティー化に取り組んでいます。

２．一般社団法人らぷらす設立の経緯

統合失調症を持つ双子の兄弟を持つお母さんとの出会いがありました。「私が元気なうちに作業所を作る」と言い、そのお母さんを支える地域の方々とも一緒に、どんな作業を行うか考えてきました。地域の現状を考えると、「高齢化率が高い。一人暮らしの高齢者も多い。」「お店が少ない。買い物しづらい」「交通機関が乏しい。」と言うことから食事に困っている高齢者がたくさんいるのでは？そこにニーズがあるのではないかと考えました。地域包括、ケアマネジャー、民生委員からも情報を頂き「必要なサービス。ニーズはある。」と回答を頂きました。そこで就労継続支援Ｂ型事業所「さぽーとセンターシューパロ」を開設し、配食サービスを始めました。地域の高齢者の食事を提供し、安否確認も兼ねて配達時に挨拶をする、障害を持つ方が支援を受ける立場としてではなく、高齢者を守る立場として地域の役割を担っていこうとスタートしました。当初は就労Ｂの利用者さんも毎日通ってくるのは２名～４名、配食サービスもひと桁代の配達でしたが、現在は利用者さんの登録が１３名、配食数が一日７０食前後で高齢者だけではなく企業、市役所など幅広くご利用頂き、障害を持つ方の働く場としてのニーズだけではなく宅配弁当という地域に必要なニーズに基づいた事業所として認識されてきていると思います。

当時はまだらぷらすではなく、財政破綻後に夕張市内の公民館（ゆうばりはまなす会館）を指定管理者として様々な活動をされていた、当別町のNPO法人当別町青少年活動センターゆうゆう２４（現在は社会福祉法人ゆうゆう）の事業としてスタートしました。地域のニーズが見え、やることが決まりましたが起業のノウハウもなかったので、ゆうゆうさんに相談し、事業の開設の意図をお伝えし、ご理解を頂き、ご指導を頂きながら事業を充実させ３年

後に独立しました。ゆうゆうさんとの出会いなしでは今のらぷらすは無かったと思います。

３．地域のニーズから始まる事業

「さぽーとセンターシューパロ」を開始した翌年、児童デイサービスセンターからころ（現在は放課後等デイサービス）を開設しました。これも一つのご家族の困りごとから始まりました。K 君は３年生までは、放課後は学童保育で過ごしていました。お母さんは母子家庭で３人のお子さんを一人で育てていました。K 君が４年生になり学童保育の対象外となってからは、学校が終わると自宅に帰り、ランドセルを投げ捨て、誰にも何も言わず自転車に乗って出かけてました。お母さんが、仕事が終わって１８時３０分頃、自宅に戻るとK君はいません。それから１～２時間探し回り、ようやく見つけて連れて帰り、夕食の準備をするという生活を１年間続けていたというお話を夕張市の保健師から聞き、児童デイサービスの開設に至りました。

児童デイサービスも当初は４名のお子さんの預かりから始まりましたが現在は登録が１８名となり毎日１０名前後のお子さんが元気に来所し過ごしています、こちらも地域に必要なニーズであったのではないかと思います。

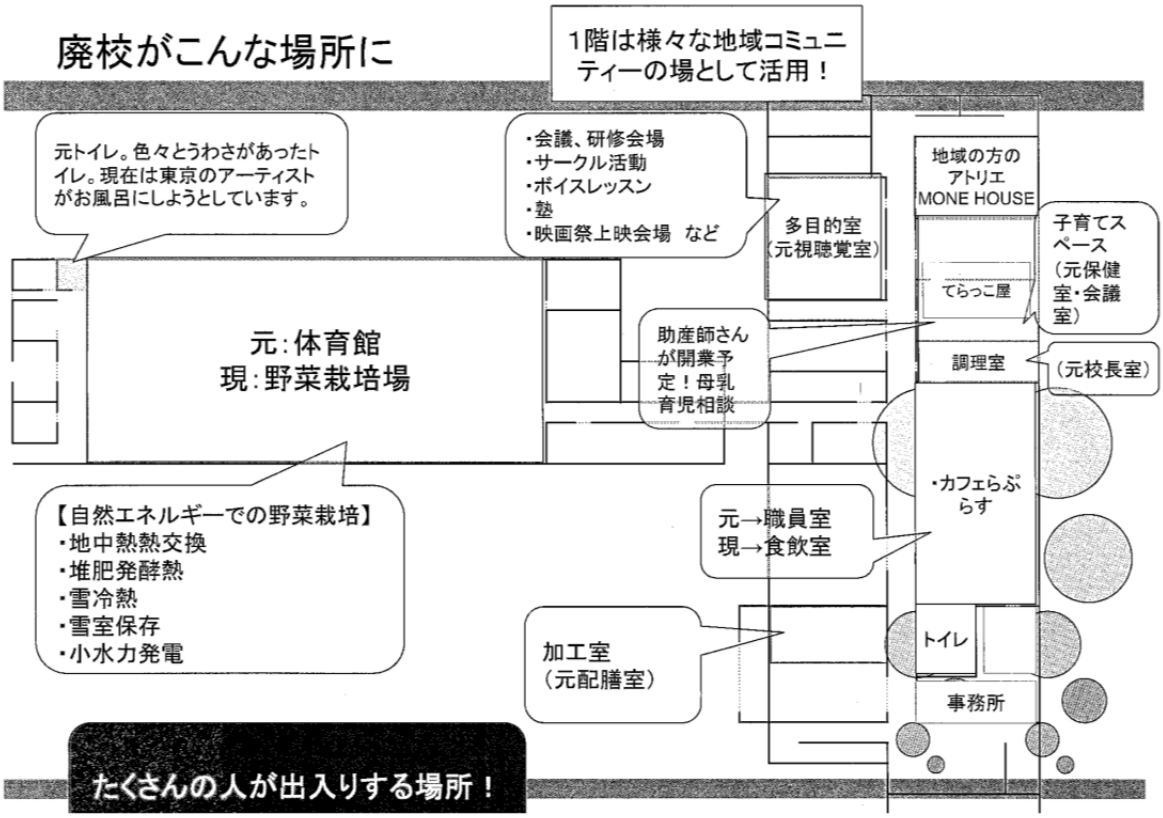
４．誰もが集まれる居場所づくり

ゆうばりはまなす会館では就労継続支援B型事業、放課後等デイサービス、児童発達支援事業を行っておりますが、近所の方が子どもたちの顔を見に来たり、放課後等デイサービスの利用児の同級生が遊びに来たりと､地域の方が自由に出入りできるような場にしています。また、放課後等デイサービスの長期休暇時は過ごす時間が普段の放課後より長いので、毎日イベントを組んでいます。からころ単独でイベントをやるだけではなく、さぽーとセンターシューパロやゆうばり共生型ファームとの合同イベント、地域にある高齢者関係の事業所との交流、地域の商店での飲食、交通機関の利用など、地域の社会資源との繋がりを大切にしています。

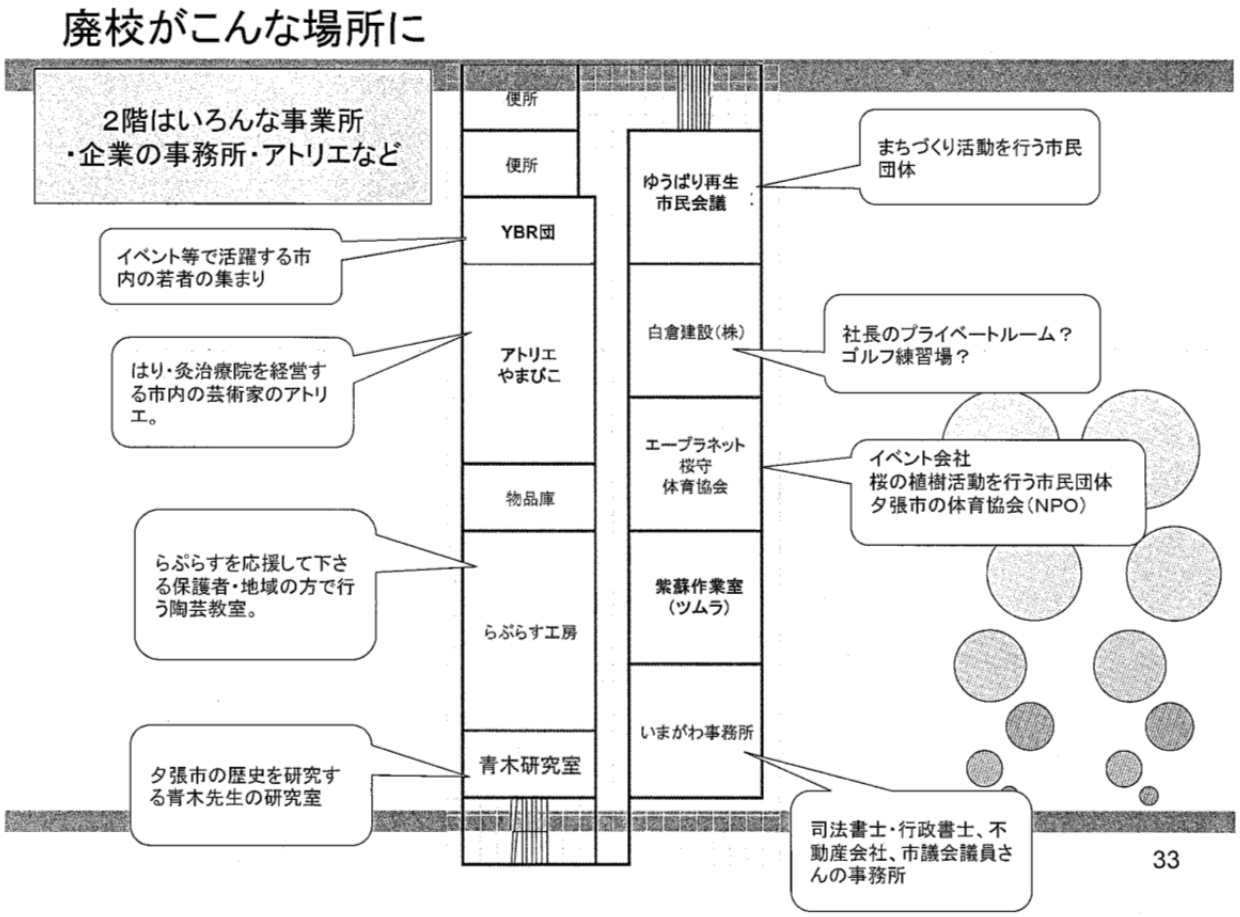
その後廃校の小学校を使って新たな事業を始めました。当時、耐震法の関係で市内の大きな会館が閉鎖することになったこともあり、らぷらすが旧夕張小学校を管理することが決まると､「教室空いてる？」という問い合わせがたくさんあり、らぷらすで使用する予定になっていた教室以外の空き教室は早い段階で全て利用予定が入りました。

ゆうばり共生型ファームでは、就労継続支援A型事業でランチバイキングを営業しながら障がいを持つ方の働く場所の拡大、就労Bからのステップアップの場所として、就労支援の充実を図ることと、人手不足の所には高齢者の生きがいづくりの場としてボランティア活動を進めてきたり、生活困窮世帯の方の就職前の就労体験の場としても提供してきました。

地域のお母さんたちが立ちあげた子育て支援の団体も空き教室に拠点を置き、合同でのイベントを通して子育て世代が交流できる環境づくり、子供たちが遊べる場を設置しました。高齢者と一緒に三世代交流イベントなど、世代や障がいに関係なく集まれる空間づくりを進めています。



ゆうばり共生型ファーム　１階



ゆうばり共生型ファーム　２階

ゆうばり共生型ファームでは、支える人、支えられる人がはっきりとせず、誰が誰だかわからないとよく言われます。「共生型」と言う言葉にとらわれず、「高齢者も障害者も子供も」とあまり形にこだわらず、市民一人一人が得意な事、出来ることで力を発揮できる環境を作ることで、それぞれに役割が出来、支え合える仕組みができるのではないかと思います。

北海道発！転げ落ちない社会を作る！

一般社団法人らぷらす
安斉 尚朋

自己紹介

- 趣味　アウトドア

2

らぷらすの理念

- どんなに重い障害を持っていても生涯地域で暮らせるまちづくり
- たくさんの人が集まれる拠点づくり

「らぷらす」とは？
La place　フランス語で
「広場」「人が集まる場所」

3

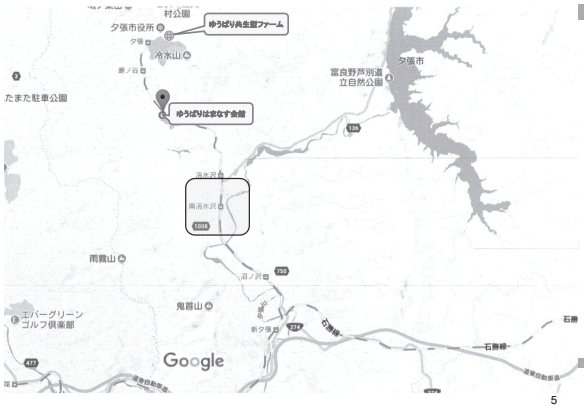
夕張市の状況

- 人口　8，105人（平成30年12月）
- 高齢化率　50．96%（平成40年12月）
- 障がい者の人口比率　12．7%（平成29年3月）

市民の6割以上が高齢者と障がい者のまち！！
支援の対象者ではなく、活躍する人達に！

4

夕張市



5

らぷらすの事業

ゆうばりはまなす会館	旧夕張小学校	夕張駅	石炭博物館
・指定管理 ・豊生会送迎委託 ・就労継続支援B型 （さぽーとセンターシューパロ） ・放課後等デイサービス （からころ） ・児童発達支援 （からころ） ・特別支援学級通学支援	・就労継続支援A型 （ゆうばり共生型ファーム） ・ファームカフェらぷらす ・農業、食品加工 ・貸し事務所 ・地域交流スペース ・子育て支援スペース ・塾、学習支援	・委託管理 ・夕張観光案内センター	・施設外就労 （館内清掃・草刈等） 2019年4月からスタート

6

7

ゆうばりはまなす会館

・地域の公民館
・葬儀会場
・研修、会議の会場
・イベント会場

平成18年　財政破綻
閉館

・地域の公民館
・葬儀会場
・研修、会議の会場
・イベント会場
これらの機能が失われる！

指定管理に名乗り

【NPO法人ゆうゆう】当別町
・はまなす会館を指定管理し、今までの会館の機能を復活させる。
・地域福祉推進のため、研修会、福祉有償移送サービス等の講習会を開催する。
・地元に根付くため、灯油、ガス、除雪等は会館がある若菜地域の業者と契約する。

地元の人が起業するまでの間サポート

【平成21年8月3日】
・就労継続支援B型事業所「さぽーとセンターシューパロ」 設立

【平成22年7月26日】
・「児童デイサービスセンターからころ」設立

平成24年6月1日
「一般社団法人らぷらす」
として独立

8

ひとりの困りごとから・・・①

・働く場所がない障害者
・親亡き後安心して働ける場が欲しい
・荒んだ食生活の高齢者
（ケアマネ、民生委員からの情報収集）

地域の困りごと解消のために！

就労継続支援B型事業所
【さぽーとセンターシューパロ】
障害者4名でスタート

配食サービスを行うことで・・・

・障害を持つ方が支援を受ける立場ではなく、地域の役割を担う立場として主体的に生きる。

○ 働く（社会とのつながり）
○ 役割（生きがい）
○ 工賃（モチベーション）

・障害を持つ人の働く場所が出来る
・「安否確認」という地域の役割を担いながら働ける
・高齢者の食事の支援が出来る
・高齢者が社会とのつながりができる
・介護保険事業所との連携ができる
（サービスの選択肢が広がる）
・一般企業や市役所からも注文が来る
・学童保育の子どものお弁当としても注文が来る
・地域の集まりのオードブルとしても利用される
・地域イベントの出店

地域に隠れていた
様々なニーズを解消！

9

配達の様子

【配達の時は】

・必ずお会いし、顔を見てお弁当を渡す。
・言葉をかける
・必要であれば、家の中までお届けする。
・変化があれば担当のケアマネ等にすぐに連絡する。（担当者会議等にも出席）
・不在の時は一度持ち帰り、再度配達。

10

さぽーとセンターシューパロ　お食事会

11

さぽーとセンターシューパロ　　こんな人も・・・。

- 調理師の試験に合格！
  「工学と調理は同じだ」
- 工賃の仕組みを自分たちで提案！
  「注文が増えたら給料も増やそう！」
- B型からA型へステップアップ
  「いろんな料理に挑戦し、将来は自分の店を持ちたい！」
- 一般就労にチャレンジ
  現在週1回就労Bで働きながら週4回介護の施設で就労

12

13

ひとりの困りごとから・・・②

Kくん

放課後過ごす場所が必要 → 児童デイサービスセンターからころ

学童保育は3年生まで！

・小学4年生
・広汎性発達障害
・兄と妹、3人きょうだい
・母子家庭（母18時まで仕事）
・帰宅後、毎日遊びに行ってしまう。
・母仕事後、近所を探し回る。
・20時前後に見つけ、帰宅。その後子供たちのご飯支度。
・コミュニケーションが上手じゃなく、しょっちゅうトラブル。その都度謝罪。
・一年間こんな生活をする。

他にもいた、こんな困りごと・・・

・小学校に進学すると下校時間が早く、働けなくなる。
・農業が忙しくて子供を見る時間がない。
・今まで短時間でしか働けず、生活が厳しい

「からころ」に行ったら障がい児！

しばらくは4名の子が通う。
夕張では・・・

特別支援学級、障がい児をあまり表に出したくないような地域特性が感じられる。

「ことばの教室」でも、「あそこに通ったら障がい児」のような見方をされるのが嫌な保護者もいた。

14

ひとりのニーズは地域のニーズ

ひとりの困りごとから始まり、4名のお子さんが通っていましたが。

通っている子供たち	・楽しい！　毎日行きたい！
保護者	・仕事ができるから助かる。 ・子どもが楽しそう。 ・一人の時間。気分転換ができる。
同級生	・なにしてるんだろう？からころってなんだろう？ ・行ってみたい！

保護者、先生、福祉課、教育委員会など、子育て環境に新たな繋がりができる。
からころに通う子供たちも増える。

15

からころでは・・・

- 様々な社会経験
- 地域との繋がり

・地域と一緒に行うイベント
・地域でのお買い物、近所のおじさん、おばさん
・いろんなお店

- 上手なコミュニケーションの仕方　「いきなり叩く」→「肩をトントン」
- 長期休暇、土曜日の楽しいイベント
  - ・高齢者施設のおじいちゃん、おばあちゃんとの交流
  - ・スポートピア（アウトドア事業所）との自然体験イベント
  - ・近所のスナックでお菓子とジュースで乾杯、カラオケ
  - ・ごみ　散らかし放題
  - ・季節のイベント
  - ・自由研究になる作品作り

地域と触れ合うことで → 「どこが障害なの？」「楽しそう！」

16

高校生アルバイト

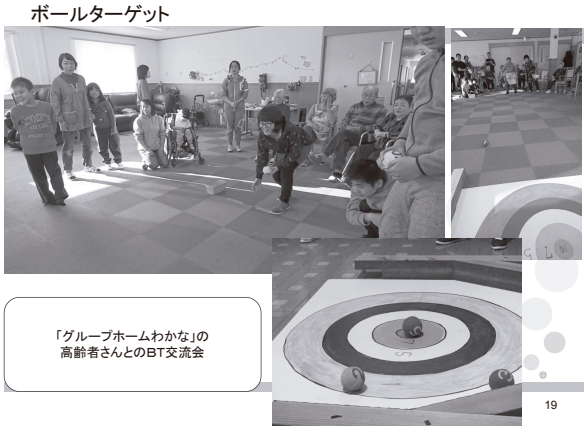
- 土曜日や長期休暇の支援員
- 年が近いお兄さん、お姉さん

17

地域の高齢者さんとのもちつき

18

ボールターゲット



「グループホームわかな」の
高齢者さんとのBT交流会

19

からころキャンプ

20

川遊び

スノーラフティング

22

声優デビュー

https://www.youtube.com/watch?v=5H-BJf3Af6M

23

スナックでカラオケ

24

シュレッダーのゴミ遊び

25

流しそうめん

26

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

27

らぷらすクリスマス会

28

らぷらすとして独立

- 平成24年4月20日登記完了
- 平成24年6月1日より今までの事業をらぷらすとして継続

29

せまくなってきた働く場所

【らぷらす】
もう一か所、障害者が働く場が欲しい

同じ担当者に相談

夕張市
まちづくり企画室

旧夕張小学校を拠点に！

【北大・設備屋】
自然エネルギーを使った野菜栽培の拠点が欲しい

・野菜の栽培を障害者や高齢者の仕事に。
・地域のコミュニティーの場に。
・災害時の避難所が、常に使われている場所だと安心。
・空き教室を有効利用。
・使われていない建物を管理するよりは使ってもらった方が安心。

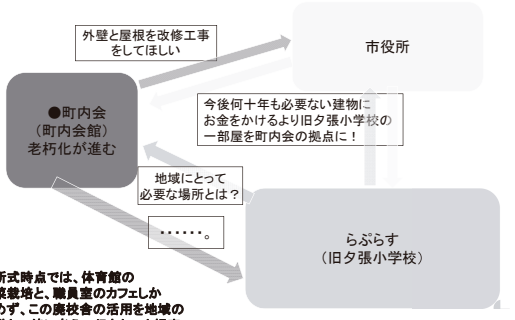
30

人が集まれる場所を作ろう

- ・障がいを持つ人の働く場所
- ・市民の憩いの場
- ・親子で遊びに来れる場所
- ・ネット環境があれば仕事ができる人のための場所
- ・貸事務所
- ・高齢者の生きがいづくりの場
- ・サークル活動、研修会場等

31

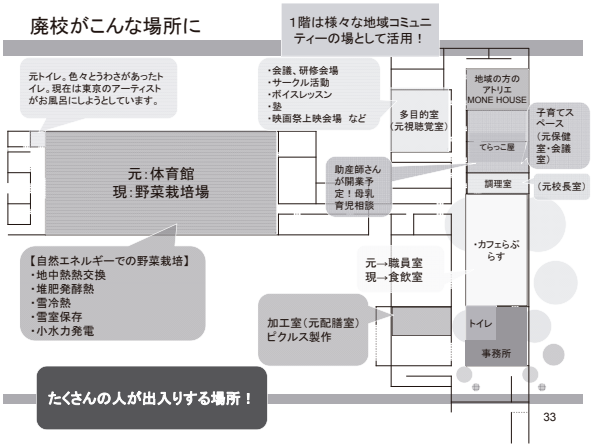
町内会とのお話合い



開所式時点では、体育館の野菜栽培と、職員室のカフェしか決めず、この廃校舎の活用を地域の皆様と一緒に考えて行きたいと提案。

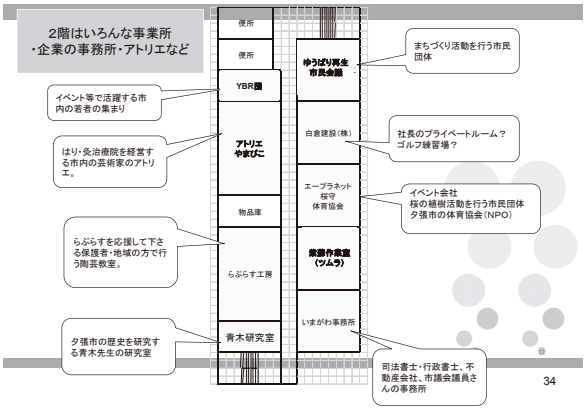
32

廃校がこんな場所に



33

廃校がこんな場所に



34

【カフェの様子】

最初は一品メニューだったが、
現在はランチバイキング

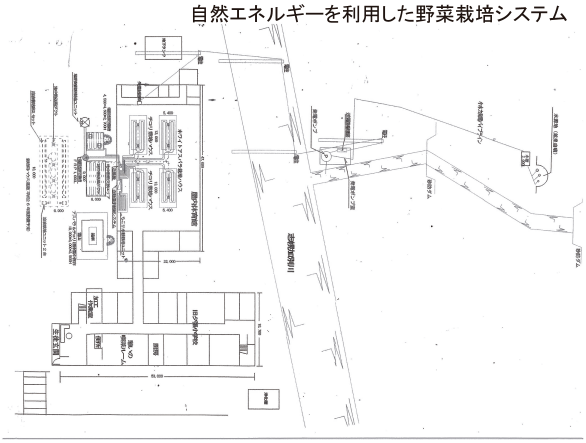
35

みんなのとしょかん

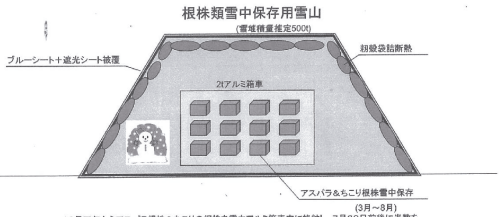
36

37

自然エネルギーを利用した野菜栽培システム

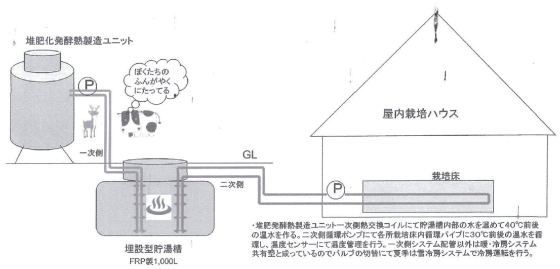


根株類長期雪山
雪中保存模式図



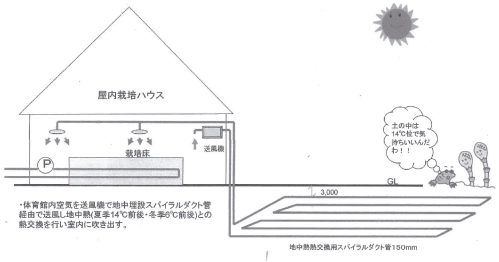
・12月下旬からアスパラ根株＆ちこりの根株を雪中アルミ箱車内に格納し、7月20日前後に半数を雪中より取出し残り、半数を8月20日前後に取出し伏せ込み促成栽培を行うもので長期保存用として豪雪の地、夕張の雪を最大限活用している。

堆肥発酵熱温水暖房
システム模式図

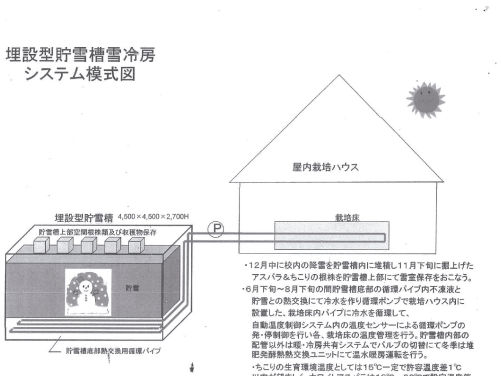


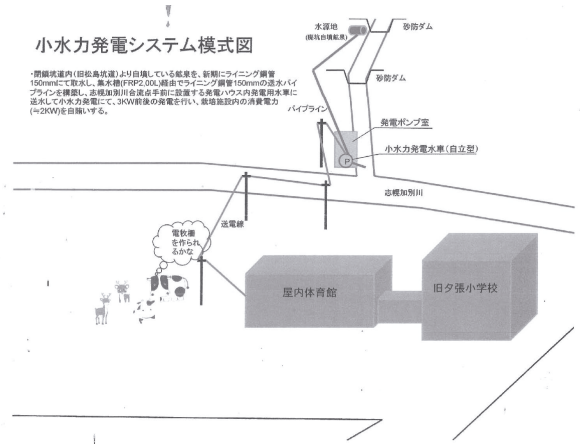
・堆肥発酵熱製造ユニット一次側熱交換コイルにて貯湯槽内部の水を温めて40℃前後の温水を作る。二次側循環ポンプにて各所栽培床内循環パイプに30℃前後の温水を循環し、温度センサーにて温度管理を行う。一次側システム配管以外は暖・冷房システム共有管と成っているのでバルブの切替にて夏季は雪冷房システムで冷房運転を行う。

地中熱熱交換送風
システム模式図
（屋内栽培ハウス）



・体育館内空気を送風機で地中埋設スパイラルダクト管経由で送風し地中熱(夏季14℃前後・冬季6℃前後)との熱交換を行い室内に吹き出す。





研修会場

45

キッズスペース（てらっこ屋）

こどもレストラン

47

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

地域の方とのイベント

49

親子で壁画

50

三世代交流
フェスティバル

51

もっと活躍できる市民がいるのでは・・・？

・イチゴパック詰めボランティア
・おにぎりボランティア
・除雪ボランティア

→ 高齢者の生きがい作り 活躍の場作り

【来年度の活動予定】

①夕張メロンの「すぐり」を使ったピクルス事業
・農家さんから「すぐり」をもらいに行く。
・「すぐり」の皮むき。カット。塩漬け
・ピクルスの瓶詰め

②石炭博物館の委託管理事業
・博物館内の清掃
・敷地内のゴミ拾い、落ち葉の片づけ等
・敷地内の草刈り

③障害者支援施設　博愛舎の清掃、管理委託事業
・施設内の清掃、管理
・利用者の送迎

職員や利用者の人手の足りないところを高齢者さんにお願いする。
高齢者さんの活躍の場づくり

50%と、高齢化率は高いが、「元気な高齢者率」も高い。

52

ゆうばりで活躍する会

年齢、世代、性別、国籍など問わず、自分の得意なこと、出来ることで地域の役割を担う活動を行う。
（草刈、除雪、子ども一時預かり、お皿洗い、図書整理、犬の散歩、運転手、花壇の手入れ、独居高齢者のお話し相手、イベントのテント張り、などなど・・・）

【ボランティアポイントカード】
1回の活躍で1個のスタンプ。スタンプが30個たまると地域の飲食店の1，000円分のお食事券になる！！

支え合う市民の力が、市内の飲食店の売り上げにも貢献できる！！

53

活躍する人たち

共生型とは？

単純に「高齢者」「障害者」「こども」を同じ場所に集めて、人が集まる場所を作ることで「共生型」になるのではなく、支え合う仕組み、一人一人が役割を持つ事が必要なのではないだろうか？

あまり「共生型」と言う言葉、拠点にこだわりは無く

一つの建物にいろんな人を集めて共生型と理念を掲げる事よりも地域にはいろんな人が普通に暮らしていて、「あの人は障害者だからこうした方が良い」「あの人は認知症だからこういうサービスが必要」ではなく、そういう人たちが暮らしていること自体が特別ではなく、当たり前に思える地域・社会が共生型ではないかと思う。暮らし、地域そのものが共生型になって行けたらと思う。

55

持ち味カード

56

福祉の仕事に必要な力

- 障害を見立てる力
- 社会に伝える力
- 自分の価値観を優先しない

58

福祉の仕事をしていて思うこと

「福祉」＝「幸せ」

- 福祉の仕事は「新たな概念や価値観を見つけ出す」ことのように思う。
- 社会で起きる殺人等の犯罪者→ 被害者？

59

自然との共生

60

61